

ま ち の 話 題

豊岡

ソフトエアロビクス教室
笑顔も大切!!
みんなで楽しく健康づくり

10月1日、豊岡健康をすすめる会ソフトエアロビクス教室が総合体育館で開催され、参加した約80人がさわやかな汗を流しました。この教室は、体を動かす楽しさを知り、運動が続けられるよう昨年度から開催しているもので、今年度は今回が3回目となります。インストラクターの小西晶子さんは「筋肉を付けて脂肪を燃やしましょう。笑顔で、楽しく、無理しないように」と話しながら少し軽めの運動を指導しました。初めて参加した奥田美代子さん(城南町)は「とても楽しい。健康づくりのため、また参加したい」と水分補給しながら笑顔で話していました。



▲手をつなぐと楽しいね。自然に笑みがこぼれる参加者

城崎

兵庫県生涯スポーツ指導者中央研究大会
大林素子さんの講演に
会場が沸く!!

9月26～27日、兵庫県生涯スポーツ指導者中央研究大会兼体育指導委員中央研究協議会が城崎大会議館で開催され、研究発表や講演、実技などに約400人が参加しました。

講演では、元女子バレー全日本選手で、現在ニュースキャスター・神戸親和女子大学客員教授の大林素子さんが、中学のバレー部監督や日立の山田重雄監督との出会いに触れ、「信頼される指導者になるには自分がぶれない、信念を変えないことが大切」と話しました。また、参加者から「キャプテンに必要なことは」との質問に、「自分から進んでやり、人より頑張ること、人を見る余裕を持つことが大事」と答えていました。



▲「写真はきれいに撮ってね」と客席に近づいて話す大林素子さん

竹野

秋の夜長を楽しむ会
琉球音楽とスズムシの
鳴き声のハーモニー

10月4日、秋の夜長を楽しむ会が竹野町竹野の御用地館で開催され、約90人が集まりました。

会場では、沖縄文化研究会「とんとんみー」の皆さんが、独特な味わいのある三線の音と軽快な太鼓のリズムに乗せて琉球音楽を披露し、参加者とともに歌う歌声が秋の夜空に響き渡っていました。行灯の灯りが導く通路や庭園には、所々にイスが設置され、そこに座った参加者たちは、月見団子やおでんを片手に琉球音楽と時折聞こえるスズムシの鳴き声とのハーモニーに、秋の訪れを感じながら情緒たっぷりの催しを楽しんでいました。



▲三線バンドグループ「とんとんみー」の皆さんが披露する琉球音楽を楽しむ参加者たち

日高

オリンピックの年は鶴岡大祭

五穀豊穡を願い 4年に1度の大行列

10月12日、鶴岡大祭が日高町鶴岡区で開催されました。

この大祭は、江戸時代から伝わる地域住民で盛り上げる秋祭りで、4年に1度、うるう年に行われます。

当日は、旗持ちと大太鼓を先導に神輿が練り歩き、それに続いて屋台、囃子、大神楽、子どもの手踊り、子どもだんじりなど総勢300人の行列が練り歩きにぎわいました。

区のあちらこちらでは、大人が勇壮な神楽の妙技を披露し、着物姿になった子どもたちは息の合った踊りで観客から歓声を浴びていました。



▲大太鼓と神輿が先導し、威勢よく区内を練り歩く

出石

出石永楽館で地元劇団が公演

満員の観客が 人情時代劇に拍手喝采！

10月1日、地元の劇団「憧憬チャンプル」により、「出石でござる 長屋の子守唄」が出石永楽館で上演されました。

長屋の取り壊し騒動を舞台にした劇には、出石の方言や地元紹介が盛り込まれ、地域の人情味の良さを出すため、悪人は一人も登場しません。予告なしに中貝市長が奉行役で登場するなど、多彩な演出のコミカルな劇に、終始笑い声が響いていました。

脚本・演出担当の中嶋勝己さん（出石町八木）は、「永楽館の舞台は、観客席の真ん中で演じているように感じるとても気持ちが良い舞台です。明治からの伝統の上に、平成の歴史も重ねていきたい」と話していました。



▲明るく元気な長屋の人々を描いた場面

但東

赤野太刀振り

太刀を跳び越す 振手の素早い技

10月12日、但東町中山の赤野神社周辺で「赤野太刀振り」が行われました。

太刀振りは、明治41年に丹後地方から奥藤区、そして赤野区へ伝わったとされ、昭和7年からは赤野神社の行事として、昭和48年には保存会が発足し、受け継がれてきました。

保存会の小中学生や青年らの振手は、五穀豊穡や無病息災を願いながら、区内の路上で「道振り」を披露したり、境内では「宮振り」を奉納し、観客から拍手が送られました。同会青年会長の平野伸悟さんは「今年も奉納することができました。いつまでも伝統文化を継承していきたい」と話していました。



▲赤野神社の境内で、横笛や太鼓の音に合わせて太刀を跳び越す「宮振り」を奉納する保存会の振手